

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
日本工学院専門学校		昭和51年7月1日	千葉 茂		〒144-8655. 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人 片柳学園		平成25年3月1日	片柳 鴻		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-6424-1111		
目的	Macによるデザイン制作・画像加工の基礎から、ポスター・フライヤー・雑誌等印刷のためのコンピュータによる印刷入稿データ(DTP)技術の修得、デッサン・色彩・平面構成からグラフィック・イラストレーション等デザインセンスの基礎から応用を修得し、実践的な能力を備えた広告・印刷業界で活躍する人材を育成する。						
分野	課程名	学科名		専門士	高度専門士		
工業	芸術専門課程	グラフィックデザイン科		平成17年文部科学大臣 告示第177号	-		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3	年 昼間	2580	885	0	2505	0	0
生徒総定員		生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120		132	3	11	14		
学期制度	<b>■前期:</b> 4月1日～9月30日 <b>■後期:</b> 10月1日～3月31日		成績評価		<b>■成績表:</b> 有 <b>■成績評価の基準・方法</b> 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S:90点以上 A:80～90点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格 P:単位認定		
長期休み	<b>■学年始:</b> 4月1日～ <b>■夏季:</b> 8月1日～8月31日 <b>■冬季:</b> 12月23日～1月9日 <b>■学年末:</b> 3月17日～3月31日		卒業・進級条件		<b>進級要件</b> ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること <b>卒業要件</b> ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること		
生徒指導	<b>■クラス担任制:</b> 有 <b>■長期欠席者への指導等の対応</b> 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。		課外活動		<b>■課外活動の種類</b> 卒業作品展覧会、ボランティア活動、体育祭、学園祭 <b>■サークル活動:</b> 有		
就職等の状況	<b>■主な就職先、業界等</b> (株)アレックス、(株)ケイツー、(株)スパイス、図書印刷(株)、(有)ブラックドッグ、(株)マウンテンスタジオ、他デザイン、広告、印刷業界 <b>■就職率<sup>※1</sup></b> : 97.0 % <b>■卒業者に占める就職者の割合<sup>※2</sup></b> : 86.5 % <b>■その他</b> (平成 27 年度卒業者に関する 平成28年5月1日 時点の情報)		主な資格・検定等		色彩検定 ビジネス能力検定		
中途退学の現状	<b>■中途退学者</b> 4 名 <b>■中退率</b> 3.0 % 平成27年4月1日時点において 在学者 133 名 (平成27年4月1日入学者を含む) 平成28年3月31日時点において 在学者 131 名 (平成28年3月31日卒業者を含む) <b>■中途退学の主な理由</b> 進路変更(就職・進学)、経済的理由、病気治療、成績不良 等 <b>■中退防止のための取組</b> 担任と科長による面談。懇談会・電話連絡等による保護者との情報共有。 担任による指導の他、経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてはカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。						
ホームページ	<a href="http://www.neec.ac.jp/">http://www.neec.ac.jp/</a>						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

グラフィックデザイン分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施し、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラムに反映させる。カリキュラムについては年度ごとに総合的に検証する。授業科目のシラバスをもとに、科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、内容や評価方法を定める。また、学習評価を踏まえ、授業内容・方法等について検証する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、学校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
浅野 健	印刷工業会副会長／株式会社金羊社代表取締役	平成28年4月1日～平成29年3月31日	①
古木勝紀	株式会社バンパー取締役・アートディレクター	平成28年4月1日～平成29年3月31日	③
犬飼健二	有限会社犬飼デザインサイト取締役社長・アートディレクター	平成28年4月1日～平成29年3月31日	③
遠山 一明	日本工学院専門学校 副校長	平成28年4月1日～平成29年3月31日	
鶴田 勇一	日本工学院専門学校 デザインカレッジ カレッジ長 科長	平成28年4月1日～平成29年3月31日	
只埜 洋樹	日本工学院専門学校 教育・学生支援部 次長	平成28年4月1日～平成29年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数は2回の予定、開催時期は8月及び3月の予定

(開催日時)

第1回 平成28年3月14日 14:00～16:00

第2回 平成28年8月22日 14:00～16:00

第3回 平成29年3月予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

グラフィックデザイン業界でデザイナーとして働くためにはデザイン力、技術力を持っているのは当たり前で、生きて行くためには「提案力」が必要との委員からの意見があった。よって「グラフィックデザイン実習1」においては市場調査に基づくデザインの提案を実施し、実践的な授業を行う事とした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的な課題を行うために、広告印刷業界に精通し、専門的かつ実践的な知識、技術を持った講師派遣等の協力が得られることが可能な企業を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

学科担当教員と企業派遣講師との間でデザイン技術や知識について意見を交換し、授業計画、評価方法、学生指導上の問題点、改善案などを計画し、実際に授業を行う。授業の成果物をもとに派遣講師が採点し、学科担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
コンピュータグラフィックス1	Illustrator、Photoshopの知識と基礎技術を習得します。	有限会社 akkdy-f
グラフィックデザイン実習1	書籍や雑誌の編集デザインに関する知識と技術を学び、企画提案からデザイン制作までを実践する。	有限会社 シエル

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

Reality(VR)システムの活用について」同社の藤井正英氏/大内美日子氏にお話しいただき、VRにおけるグラフィックデザインの役割などについてレクチャーを受け、意見交換をした。

②指導力の修得・向上のための研修等

平成29年2～3月に開催を予定。教授法や学生指導における実例、解決策等を学び、今後の学生指導に活かす研修会。蒲田キャンパスにてグラフィックデザイン科および関連学科教員を対象に開催予定。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

関連業界の動向や最新技術の研究、教育ツールの認知、就職指導における課題や解決策等をテーマにした研修会。八王子キャンパス、蒲田キャンパスまたは学外にてグラフィックデザイン科および関連学科教員を対象に開催予定。

②指導力の修得・向上のための研修等

平成30年2～3月に開催を予定。教授法や学生指導における実例、解決策等を学び、今後の学生指導に活かす研修会。蒲田キャンパスにてグラフィックデザイン科および関連学科教員を対象に開催予定。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学科のカリキュラムや育成される人材等を企業等に所属する学校関係者から評価してもらい、専門科目以外にも一般科目におけるビジネスマナーや社会人基礎力養成等、次年度以降のカリキュラムに反映させている。また中期・長期にわたる学科の将来性について委員会等で引き続き項目を検討し、次世代に必要とされる人材教育の研究に役立てている。  
昨年度の学校関係者評価に基づき、学校関係者から「企業連携等を強化し、専門学校の特徴である職業教育を充実させた方が良い」という意見があったので、本科では企業と連携した設計課題の作成を授業に取り入れ、地元大田区の企業の方を招いて講評会を実施して連携強化に取り組んだ。また、次世代に必要とされる人材教育の研究に役立てるため、連携企業における研修においても業界の最新情報を収集し、教員のスキルアップを図った。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

教員からの一方的な講義で知識を覚えるのではなく、学生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うのを目的としたグループワークなどを実施した方が良いと意見を受け、教員研修の実施や実習などを計画から実施するまでをグループで一貫して行い、今後の学生指導、カリキュラムの設定に反映させる。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
桂田 忠明	セントラル電子制御株式会社 代表取締役	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	IT企業等委員/ 卒業生委員
正木 英治	株式会社マックス 専務取締役	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	地域関連/ 会計専門委員
工藤 俊一郎	公益財団法人 放送番組センター 顧問	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	クリエイターズ企業等 委員/卒業生委員
小澤 賢侍	CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興 協会)教育事業部教育推進グループセクションチーフ	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	クリエイターズ/ デザイン企業等委員
浅野 和人	一般社団法人 大田工業連合会 事務局長	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
須賀 寛光	学校法人上野塾 東京実業高等学校 キャリアセンター長 進路指導副部長	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	学校関連

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) ) 平成28年9月12日

URL: [http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/17073/27\\_kobetsuhyoka\\_kmt.pdf](http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/17073/27_kobetsuhyoka_kmt.pdf) (自己評価表)

[http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/17073/28\\_kankeisyahyoka\\_kmt.pdf](http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/17073/28_kankeisyahyoka_kmt.pdf) (学校関係者評価結果)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	学校の現況、理念・目的・育成人材像、事業計画
(11)その他	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: [http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/17073/28\\_opendata\\_kmt.pdf](http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/17073/28_opendata_kmt.pdf)

授業科目等の概要

(芸術専門課程 グラフィックデザイン) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネススキル	社会人に求められるマナーやコミュニケーション能力について理解します。	1・前	30	2	○			○		○		
○			キャリアデザイン1	さまざまな事例を通してデザイナーの仕事を理解します。	1・後	30	2	○			○		○		
○			コンピュータリテラシー1	ビジネスソフトの使い方を学びます。	1・前	15	1			○	○			○	
○			コンピュータリテラシー2	プレゼンテーションソフトの使い方を学びます。	1・後	15	1			○	○			○	
		○	スポーツ実習1	冬季期間中のスキーやスノーボードの集中授業をはじめ、さまざまなスポーツの実習を行います。	1・通	30	1			○		○	○		
○			デザイン概論	デザインの領域とその変遷について学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
○			美術概論	美術史における歴史的な表現について学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
○			デザイン各論1	人間工学／コミュニケーション論を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
		○	デザイン各論2	インテリアエレメント／プロダクトデザイン理論を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
		○	デザイン各論3	印刷概論／デジタルデザイン理論を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
		○	デザイン各論4	インテリア技術／プロダクトデザイン理論を学びます。	1・後	30	2	○			○			○	

## 授業科目等の概要

(芸術専門課程 グラフィックデザイン) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	デザイン各論 5	書籍の編集デザイン／Webデザイン概論を学 びます。	1・ 後	30	2	○			○			○	
		○	資格対策講座 1	CAD利用技術者、Webデザイナー検定などの 合格をめざす対策講座です。	1・ 通	15	1	○			○			○	
		○	色彩検定講座 1	色彩検定の合格を目指す講座です。	1・ 通	15	1	○			○			○	
○			コンテンツデ ザイン実習1	静止画を用いたコンテンツ制作スキルを身 につけます。	1・ 後	45	1			○	○			○	
○			コンピュー タグラフィッ クス1	Illustrator、Photoshopの知識と基礎技術 を習得します。	1・ 前	45	1			○	○			○	○
○			コンピュー タグラフィッ クス2	Illustrator、Photoshopを使用し、さまざ まなツールを制作します。	1・ 後	45	1			○	○			○	
○			基礎デザイン 1A	鉛筆による静物デッサンを通じて観察力、 基礎描写力を身に付けます。	1・ 前	90	3			○	○			○	
○			基礎デザイン 2A	平面構成、色彩計画、タイポグラフィーな どグラフィックデザインの基礎を学びま す。	1・ 後	90	3			○	○			○	
○			基礎デザイン 1B	紙、粘土などを使った実習により、立体・ 空間構成力を身に付けます。	1・ 前	90	3			○	○			○	
○			基礎デザイン 2B	立体物のデザインとその表現方法を学びま す。	1・ 後	90	3			○	○			○	
○			デザイン総合 演習1	デザインの総合的な力を身につけます。	1・ 前	45	1			○	○			○	
○			デザイン総合 演習2		1・ 前	30	1			○	○			○	

授業科目等の概要

(芸術専門課程 グラフィックデザイン) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デザイン総合演習3	デザインの総合的な力を身につけます。	1・後	45	1			○	○			○	
○			デザイン総合演習4		1・後	30	1			○	○				○
		○	海外デザイン研修1	海外デザイン研修を通じて、デザイナーとしての視野を広げます。	1・通	30	1	○				○			○
○			キャリアデザイン2	特別講義などでデザインの仕事を理解すると共に、SPIなど筆記試験対策も実施します。	2・前	30	2	○				○		○	
○			キャリアデザイン3	就職希望企業の研究、ポートフォリオ準備、履歴書・面接対策などを行います。	2・後	30	2	○				○		○	
		○	スポーツ実習2	冬季期間中のスキーやスノーボードの集中授業をはじめ、さまざまなスポーツの実習を行います。	2・通	30	1			○		○			○
○			コンセプトワーク	問題点を抽出し、企画を立案するプロセスについて学びます。	2・前	30	2	○				○			○
○			メディアリテラシー	メディアの読み取り方を学び、その役割を考えます。	2・前	30	2	○				○			○
○			作品研究	さまざまな作品を鑑賞し、表現の多様性について学びます。	2・後	30	2	○				○			○
○			デザイン関連法規	著作権など、デザインに関連した法律知識を身につけます。	2・後	15	1	○				○			○
○			コミュニケーションデザイン	地域社会を題材にデザインプランを検討、提案します。	2・前	30	2	○				○			○
○			アートディレクション	さまざまな事例を通して、ディレクションの役割やコンセプトについて学びます。	2・後	30	2	○				○			○



## 授業科目等の概要

(芸術専門課程 グラフィックデザイン) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	資格対策講座2	CAD利用技術者試験、Webデザイナー検定などの合格を目指す対策講座です。	2・通	15	1	○			○			○	
		○	色彩検定講座2	色彩検定の合格を目指す対策講座です。	2・通	15	1	○			○			○	
		○	デザイン特論1	デザインカレッジの他学科の講座から選択して受講します。	2・前	30	2	○			○			○	
		○	デザイン特論2		2・後	30	2	○			○			○	
○			デザイン総合演習5	実習課題のまとめを行います。	2・前	30	1			○	○			○	
○			デザイン総合演習6		2・後	30	1			○	○			○	
○			グラフィックデザイン実習1	書籍や雑誌の編集デザインに関する知識と技術を学び作品を制作します。	2・前	45	1			○	○			○	○
		○	グラフィックデザイン実習2	実制作を通してグラフィックデザイナーとしての技術力、表現力を磨きます。	2・後	90	3			○	○			○	
○			イラストレーション実習1	イラストレーション、絵本に関する知識と技術を学び作品を制作します。	2・前	45	1			○	○			○	
		○	イラストレーション実習2	実制作を通してイラストレーターとしての技術力、表現力を磨きます。	2・後	90	3			○	○			○	
○			Webデザイン実習1	CSSなどを用いたWebサイトの構築技術を学びます。	2・前	45	1			○	○			○	
		○	Webデザイン実習2	HTML5などを用いて、動的なWebサイトの構築技術を学びます。	2・後	90	3			○	○			○	

授業科目等の概要

(芸術専門課程 グラフィックデザイン) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			グラフィックデザイン総合実習1	広告表現に関する知識と技術を学び作品を制作します。	2・前	135	4			○	○			○	
○			グラフィックデザイン総合実習2	各自のテーマに基づき作品を制作します。	2・後	90	3			○	○			○	
○			デザイン実践演習1	デザインカレッジ合同プロジェクト、企業課題、委託研究などに取り組みます。	2・後	90	3			○	○			○	
		○	海外デザイン研修2	海外デザイン研修を通じて、デザイナーとしての視野を広げます。	2・通	30	1	○				○	○		
		○	インターンシップ1	デザイン業界における短期研修です。	2・前	60	2			○		○		○	
		○	インターンシップ2		2・後	60	2			○		○		○	
○			キャリアデザイン4	就職希望企業の研究、ポートフォリオ準備、履歴書・面接対策を行います。	3・前	30	2	○			○		○		
○			キャリアデザイン5	個別の就職活動指導を行います。	3・後	30	2	○			○		○		
		○	スポーツ実習3	冬季期間中のスキーやスノーボードの集中授業をはじめ、さまざまなスポーツの実習を行います。	3・通	30	1			○		○		○	
		○	資格対策講座3	CAD利用技術者、Webデザイナー検定などの合格をめざす対策講座です。	3・通	15	1	○			○			○	
		○	色彩検定講座3	色彩検定の合格を目指す対策講座です。	3・通	15	1	○			○			○	
		○	デザイン特論3	デザインカレッジの他学科の講座から選択して受講します。	3・前	30	2	○			○			○	

## 授業科目等の概要

(芸術専門課程 グラフィックデザイン) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	デザイン特論4	デザインカレッジの他学科の講座から選択して受講します。	3・後	30	2	○			○		○		
○			デザインリサーチ	卒業制作作品のための情報収集をし、企画をまとめます。	3・前	30	2	○			○		○		
○			デザイン実践演習2	デザインカレッジ合同プロジェクト、企業課題、委託研究などに取り組みます。	3・後	180	6			○	○			○	
○			グラフィックデザイン総合実習3	各自のテーマに基づき作品およびポートフォリオを制作します。	3・前	180	6			○	○			○	
		○	海外デザイン研修3	海外デザイン研修を通じて、デザイナーとしての視野を広げます。	3・通	30	1	○			○		○		
		○	インターンシップ3	デザイン業界における短期研修を実施します。	3・前	60	2			○	○			○	
		○	インターンシップ4		3・後	60	2			○	○			○	
○			卒業制作	各自のテーマに基づき3年間のまとめとしての作品を制作します。	3・後	360	12			○	○			○	
合計						67 科目	3390 単位時間 ( 136 単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目2445時間(94単位)取得および選択科目を90時間(3単位)以上取得し、合計2535時間(97単位)以上取得すること	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。